

2012/11/28  
第 43 号  
(24 年 11 月号)

# しののめ



長野県総合教育センター通信

〒 399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4  
TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail [kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp](mailto:kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp)

## 「自分の課題が見えるということ」 企画調査部長兼教科教育部長 高野 正延

先日、ある授業を参観させていただいた。その授業者は、当初、自分の課題が見つからなかったということであった。課題を感じなければ、授業改善を行う端緒は開かれぬ。授業改善という言葉は耳にしても、切実感を持ってそれを受け止めることにはならないだろう。毎日が忙しく、じっくりと自分の授業を振り返る暇もないというのが正直なところかもしれない。



ともあれ、その授業者は、同僚たちとの共同研究を通して、自分の課題を見いだしていった。自分の課題が見えるようになるということも、校内研究のよさだと思ふ。

当センターの研修からも、先生方の同様の姿がうかがえる。

「頭の中を整理できた気がします。……本当に、よい機会をいただきました。自分がどうしたいか、どうなりたいかを考える機会になりました。まずは、あきらめずにやってみようと思います。」

これは、研修講座を受講されたある高校の先生の感想である。今のままでよいと思っているわけではけっしてないが、自分が進む方向が見えないという先生もいる。

一方、自分なりの方向性や方法は持っているが、それが果たして一般的に通用するのか、子どものためになっているのかと、心配しつつ受講される先生も少なくない。「一番大切に考えなくてはいけないところを、一番おろそかにしていたように思います。」や「自分がすごく的外れな授業をしてしまっているなど反省しました。」などの受講後のアンケートの言葉は、その表れと言えるだろう。研修講座を通して、授業のポイントとなるところや自分が本当に力を尽くすべきところに目を向けることができたと思われる。

私は、教育センターという研修施設に勤務して、多くの先生方の真摯に研修する姿に触れてきた。そして、その中で、自分の目標とする授業がはっきりしないで悩んでおられる先生方が意外に多いことに気づかされた。こんな授業をしてみたいという具体的な姿が見えにくいのである。そんな意味もあって、ここ2、3年は、研修講座に模擬授業を多く取り入れている。単なる how to ではない。「とても納得することができた。もっと考えてみたい。」「こんな授業を目指していきたい。」「解決策が見えてきました。課題も見えてきました。」などの言葉にあるように、その先生の心に落ちることが大切なのだ。

「私に足りなかったものは、…だと分かりました。」という小学校25年目の先生の言葉は重い。自分の課題が見えるということは、授業改善や学力向上にとどまらず、先生として子どもの前に立ち、先生というキャリアステージの中で前向きに生きていくために大切なことだと考えている。





受付中です!!

# 伸ばそう信州の教育

～学校の教育課題に対応する教員の指導力・組織力向上のために～

## 平成 24 年度 長野県総合教育センター研究発表会（第 2 次案内）

総合教育センターが取り組んでいる学校教育に関する研究成果の発表により、県内の各学校・教育関係機関等における研究活動の充実、教職員の指導力向上に資することを目的として開催します。  
県内外の小・中・高・特別支援学校の教職員、教育関係機関等の職員の皆様、ぜひ、ご参加下さい。

1 日 時 平成 25 年 2 月 22 日（金）

2 会 場 長野県総合教育センター 講堂ほか  
〒399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4  
TEL:0263-53-8802 Fax:0263-51-1290 <http://www.edu-ctr.pref.nagano.lg.jp/>

3 日 程

時間	内 容			会場	
9:40～9:50	開会行事			講堂	
9:50～10:50	講演「伝わる話し方、言葉と考える力」 講師 風見 雅章 (NHK 日本語センター部長 NHK エグゼクティブアナウンサー)			講堂	
10:50～11:00	休 憩				
11:00～12:00	全体発表 2 本 ①「思考力・判断力・表現力等の評価にかかわる研究調査 ～適切な「評価規準」と「評価方法」に基づく「見とどけ」のあり方～【教科教育部】 ②『「情報モラル教育」教材の充実と活用法に関する研究』【情報産業教育部】			講堂	
12:00～13:00	昼食（食堂を開放）				
13:00 } 13:50	第一分科会	ア「思考力・判断力・表現力等の評価の実際」(各教科)【教科教育部】	イ 特別支援教育 ①子どもが学びやすい環境にするために ②「読み書き」に困難のある子どもに気づくために 【生徒指導・特別支援教育部】	ウ 産業教育長期研修 ☑「射出成形技術の課題研究での活用について」 ☒「プログラミング学習としてのJava言語の研究と教育利用」	各会場
13:50～14:00	休 憩				
14:00 } 14:50	第二分科会	エ「信州 Basic」を活用しよう【教科教育部】	オ 生徒指導 ①子どもとの関係づくりを振り返るために ②子どもの SOS を見逃さないために 【生徒指導・特別支援教育部】	カ 産業教育教材開発研究 ☒新科目「農業と環境」における地域資源を活用した教材開発 ☒①デジタルメモカードの開発と活用 ②パワール CAD を用いた教材の研究	各会場
14:50～15:00	休 憩				
15:00 } 15:50	第三分科会	キ「総合教育センターにおける悉皆研修の研修要素に係る調査研究」【教職教育部】	ク 研修派遣教員の発表 ①「生徒指導における支援ネットワークの構築」 ②「いじめ・不登校を未然に防ぐ豊かな人間関係づくりの在り方」 ③「日常の授業に生徒指導の機能を生かす」	ケ 産業教育教材開発研究 ☒工業技術教材研究 ☒教科「商業」における情報リテラシーとセキュリティ	各会場
				生徒実習、生徒研究発表会、先端技術研修発表会、産業教育事業報告会 ～16:30	

4 参加申込み <締切り 平成 25 年 2 月 8 日(金) 必着>

長野県総合教育センターホームページ( <http://www.edu-ctr.pref.nagano.lg.jp/> )から申込書をダウンロードし、郵送または Fax(0263-51-1290)でお申し込みください。

5 その他

参加費用は無料です。県内の教職員の皆様の旅費については、センター研修講座への参加と同様に扱います。

長野県総合教育センター 企画調査部  
 部長 高野 正延 担当 吉越 秀之  
 TEL 0263-53-8802 FAX 0263-51-1290  
 E-mail kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

## 今からでも間に合う研修講座(12月以降開講の講座)

平成24年度 長野県総合教育センター 追加募集講座一覧表					平成24年11月28日 現在
講座番号	講座名	対象	開始日～終了日	募集人数	講座PR
<b>1 教科等研修</b>					
3-1-08-04	小学校高学年 図画工作基礎B	小中特	1月10日	1	3学期から来年度へ向けて、図工指導のヒントを得たり教材研究ができていきます。
3-1-08-27	実践！美術の題材開発	中高特	1月24日	3	題材についての情報交換から、新たな題材を創り出しましょう。
3-1-09-06	幼児のふれ合いと家族	中高特	1月22日	10	幼児とふれ合う直接的な体験の指導の工夫や題材展開について深めましょう。
<b>2 教育課題別研修</b>					
※受付終了しました。					
<b>3 情報教育研修</b>					
※受付終了しました。					
<b>4 産業教育研修</b>					
3-4-12-21	マイコン制御	中高特	12月11日	6	マイコン学習経験者を対象に、温度計測を題材にしたPICマイコンの制御について学びます。
3-4-12-22	射出成形技術と金型	高(工)	1月24日～1月25日	5	射出成形機の取り扱いを中心に、しくみや金型の構造について学びます。
<b>5 生徒指導研修</b>					
※受付終了しました。					
<b>6 特別支援教育研修</b>					
※受付終了しました。					
<b>【特別講座】センター研究発表会</b>					
5-1-01-01	センター研究発表会	幼小中高特	2月22日		大会テーマ 「伸ばそう信州の教育～学校の教育課題に対応する教員の組織力・指導力向上のために～」

※追加募集は10日前まで受け付けています。センターHPで確認して電子申請で申し込みをお願いします。



## 研修講座探訪①

～情報・産業教育部の研修講座より～

### 情報教育研修講座「CSSを活用した学校ホームページ」

**11月15日(木)実施**

学校ホームページ作成の経験者を対象にした応用発展講座で、CSSを活用してコンテンツとデザインの分離や、ユーザビリティ、アクセシビリティなどホームページ作成上の留意事項について学びました。講義で「学校ホームページの運用における配慮すべき事項」を学習し、その後、「CSSを活用したコンテンツとデザインの分離」について演習をおこないました。ホームページ利用者に配慮した見やすいデザインを心掛け、目的のページをすぐに見つけることができるようにナビゲーションの方法を工夫しました。また、「CSS」を活用することでホームページ全体のデザインに統一感を持たせることができることを受講者の方々全員に実感してもらうことができました。

今後、ホームページ作成の際に、ホームページの構造を理解した上で積極的に運用してもらえることと期待しています。

＜感想より＞

- ・CSSについて、その仕組みや操作の仕方の基本を学ぶことができました。
- ・今回系統的に説明してもらえたためよかった。
- ・今後のホームページの更新がより短時間でできるようになると思う。
- ・非常に実践的でわかりやすい研修であった。



## 研修講座探訪②

～生徒指導・特別支援教育部の研修講座より～

### 特別支援教育研修「保護者と共に歩む障害のある子への支援」

10月30日（火）実施

大正大学教授であり、日本ダウン症協会理事長の玉井邦夫氏を講師に、保護者とよりよい連携をするための視点と手だてについて学びました。その一部を紹介します。障害には「個人の特性としての障害」と「関係性としての障害」の2面性があり、教師と保護者が違う面から子どもを捉えていると連携がうまくいかない。保護者の障害受容までには、「喪失」「怒り・否認」「絶望」という様々なつまずきがあり、それらを経て「適応」に向かう。人それぞれ「認知の地図（方法）」は違う。具体的な成功体験が大切であり、「能力（できる・できない）」から「やり方」への転換が必要である。面接の技法は、表現を助ける方法であり、教師の内面に魅力がなければ伝わらない。前半の講義では、このような内容について実例を挙げて具体的に教えていただきました。後半は、グループワークで様々な保護者のタイプを出し合った後で、様々な保護者に対応する面接の技法について学びました。

#### ◆受講者の感想から◆

- 保護者の思いをこれほど具体的に知ることができたのは初めてです。一歩踏み出すヒントが得られました。
- 身近なケースを思い浮かべながら聞きました。コミュニケーションの技術と共に、自分の内面を磨きたい。



### 特別支援教育研修「キャリア教育の視点で授業をつくる」

～特別支援学校、小中学校特別支援学級～

11月2日（金）実施

国立特別支援教育総合研究所主任研究員の菊地一文氏を講師に、特別支援教育におけるキャリア教育について学びました。前半の講義で教えていただいたことの一部を紹介します。「キャリア教育」の新たな定義には職業的自立だけでなく社会的自立が加えられ、その意味は大きい。「働くこと」は目的ではなく幸せになるための手段である。人は「子ども」「学生」「余暇人」「市民」「労働者」「家庭人」など様々な役割を通して学び育っていく。児童生徒の「願い（夢や希望）」を捉え、実現に向けて支えていくことをキャリア教育では大事にしたい。これらをベースにして、全国の先進的な実践をキャリア教育の視点から解説していただき、授業でどのように生かすのか、具体的にイメージできました。後半は、PATHという「夢や願い」と「現在の姿」の間のスモールステップをチームで協議し具体化するという演習を通して、実践的な支援の検討方法を学びました。

#### ◆受講者の感想から◆

- 心に強く残った言葉は「ありがとうの貯金」です。一番大切なことを忘れていた自分に気づきました。
- 明日からがんばれるエネルギーとアイテムをいただきました。夢や希望を大切に支えていきたい。



PATHの演習の様子

## 「望ましい人間関係づくり」を目指して！

生徒指導・特別支援教育部



望ましい人間関係づくりにおいては、一人ひとりの子どもを理解することは、とても大切です。しかし、

### こんな状況に陥っていることはありませんか？

- 忙しさと子どもとの関係づくりへの意識が薄くなり、配慮が欠けてしまう
- 何とかしなければと焦るばかりで、関係づくりのアイデアが浮かばない
- 問題解決をするだけでなく、集団の関係力を育てる必要性を感じる
- 周りの先生に相談したり、聞きたいけれどその時間がない

一人で悩まず！



時間をかけずに！

「子どもとの関係づくりを振り返るために」のシート(試案)を作成しました。

- 〈目的〉 ●忙しいときに、自分自身のコミュニケーションや関係づくりに意識を向け  
●関係づくりを見直し、客観的な視点を広げる

学校での人間関係づくりには、一人ひとりへの関わりと集団への関わり（子ども同士の関係づくりをコーディネートする）の2つが考えられます。その中で基本となるのは、「教育は人なり」と言われているように、**教師の日常生活における子ども一人ひとりへの関わり方**です。教師の姿勢は、子どもにとって関わり方のモデルになっていることもあるため、日々意識して大切にしていきたいものです。「子どもとの関係づくりを振り返るために」のシートを作成するにあたり、教師の関わり方の基本重点を、以下のように考え、アンケートの項目を作成しました。

関係づくりは、心と心の温かいふれあいのあるコミュニケーションを行うことだと思います。簡単にいえば肯定的なコミュニケーションです。

まず、子どもたちにたくさん関わる中で……

- 子どもをよく見て成長を喜び、ほめること
- 子どもの言っていることをよく聞き、気持ちを理解すること
- 子どもの味方になって考え、教師の意見や気持ちを伝えること

「子どもとの関係づくりを振り返るために」チェックシート(試案)は、次のページに掲載してありますので、実施してご意見をいただければありがたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

また、平成25年2月22日(金)には、センター研究発表会でシートの効果等についてお伝えできると思いますので、参加可能な先生は、センター研究発表会へ足を運んで下さい。

〈特集①〉「子どもとの関係づくり」

## 「子どもとの関係づくりを振り返る」チェックシート(試案)

自分が実践している項目の □に“し”チェックを、今後実践したい項目には“○”印を記入しましょう。

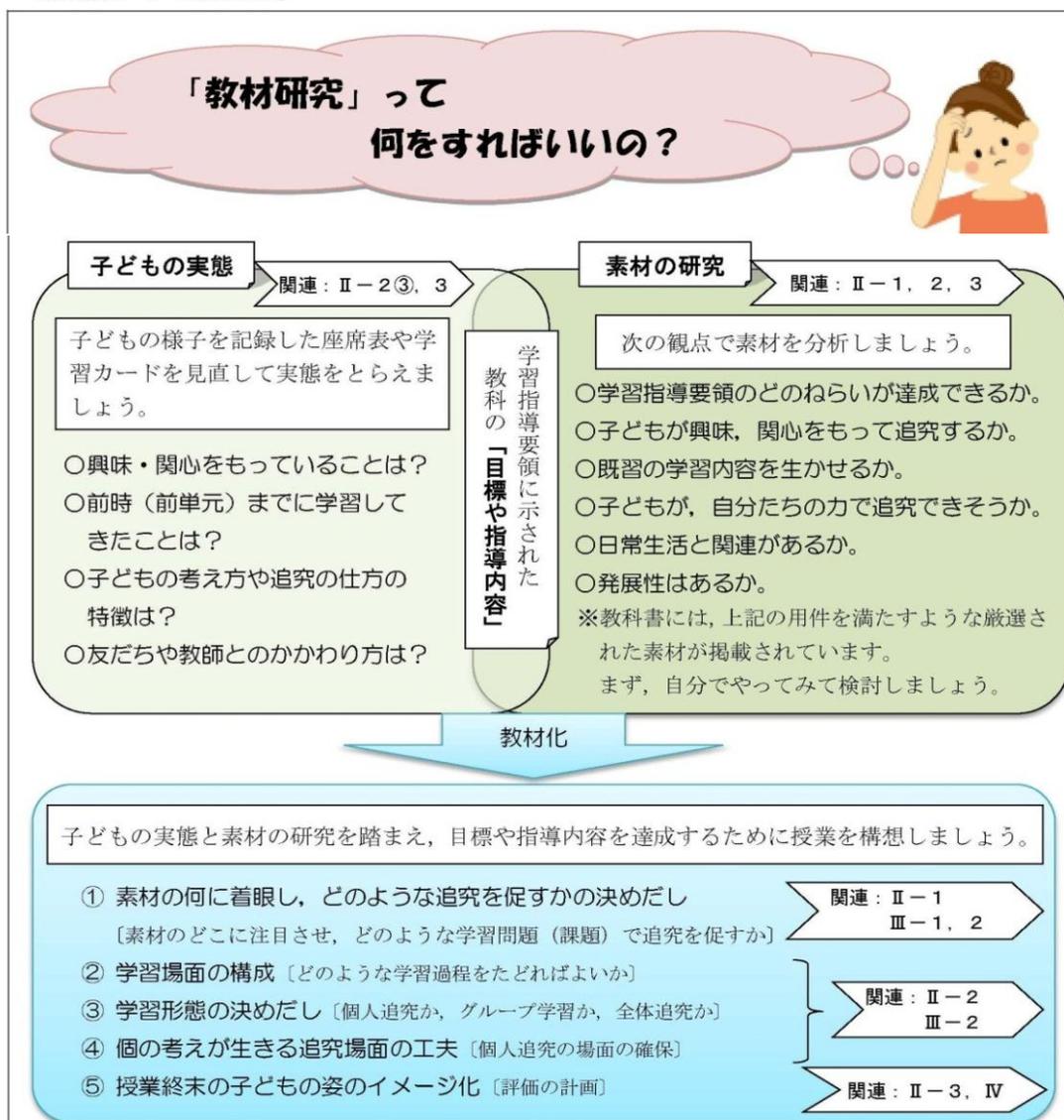
子どもとの関係づくり	温かな雰囲気作り	<input type="checkbox"/> オープンな雰囲気を作り、笑顔を心掛けている <input type="checkbox"/> 子どもと会話をする時は、子どもを見てボディランゲージを使って最後まで聴いている <input type="checkbox"/> 子どもの気持ちになって受け止めている <input type="checkbox"/> 「ありがとう」「助かったよ」など感謝の言葉を伝えている <input type="checkbox"/> 一人ひとりの得意な面や、良い行動を認めている <input type="checkbox"/> 教育相談などの機会をとって一人ひとりの内面の理解に努めている <input type="checkbox"/> 一人ひとりの得意な面や普段の小さな良い変化、成長を誉めている <input type="checkbox"/> 考えや意見が違う場合、子どもの気持ちは尊重しつつ、必要なことははっきり伝えている
	全員へのかかわりを多く	<input type="checkbox"/> 健康観察の時、一人ひとりの名前を呼んでいる <input type="checkbox"/> プリントを渡す時、一言添えている <input type="checkbox"/> 放課後や休み時間に、子どもと世間話や趣味などのおしゃべりをしている <input type="checkbox"/> 朝と帰りの挨拶は、元気に行っている <input type="checkbox"/> 学活などで、教師自身の経験談など、前向きになる話をしている <input type="checkbox"/> 生活記録や日記など日々の様子を理解して、肯定的なコメントを返している <input type="checkbox"/> 給食準備・清掃などを一緒に協力し、子ども一人ひとりの取り組みの様子を把握している <input type="checkbox"/> アンケートを実施するなど、何らかの方法で、SOSを認識しようとしている
	集団の人間関係づくり	<input type="checkbox"/> クループ活動を取り入れ、子ども同士のかかわりを多くしている <input type="checkbox"/> ペア学習など、お互いの考えを聴くかかわりを大切にしている <input type="checkbox"/> 集団活動を取り入れ、子どもたちの気持ちや意見の分かち合いをしている <input type="checkbox"/> 「良いところ見つけ」などの活動を行い、学級全体でお互いの良さを確認している <input type="checkbox"/> 間違った答えを発表した子どもにも「今の答えは役に立ったよ」など温かく対応している <input type="checkbox"/> 友だちの意見や発表を黙って最後まで聴くように、発言者に注目させている <input type="checkbox"/> 子どもたちの関係や特性等を配慮して、座席を考えている <input type="checkbox"/> 困っている友達を助ける姿やクラスに貢献する姿がみられた際は、皆の前で評価している
	安心のためのルールづくり	<input type="checkbox"/> 授業の前には教室に入り、開始と終了の時間を守っている <input type="checkbox"/> ルールが守れるように、子ども達みんなできめ、理由を共有している <input type="checkbox"/> 指示は視覚的表示も活用し、分かりやすい言葉で、はっきり短く伝えている <input type="checkbox"/> 子どもの注意を向けて確認してから指示を出している <input type="checkbox"/> ルールを守れなかった際、見逃さずその場で正しいルールを質問し確認している <input type="checkbox"/> リーダーの役割をできるだけ全員に経験させて、両方の役割を実感させている <input type="checkbox"/> 授業の終了時、集中して取り組めたことや授業のルールが守れた際は、評価している <input type="checkbox"/> 子どもの良い行動をモデルとして取り上げている
	問題発生予防・対応	<input type="checkbox"/> トラブルが起きた時、その日のうちに、両者から事実を確認して対応している <input type="checkbox"/> 3日欠席した際は、連絡の上、家庭訪問をしている <input type="checkbox"/> いじめが発生した際は、学級の問題としてみんなでどのようにしたらよいかを考えている <input type="checkbox"/> 人を傷つける言葉がみられた場合は、学級みんなできえさせる活動を行っている <input type="checkbox"/> 感情コントロールが苦手な子どもの落ち着く方法や場所を知っている <input type="checkbox"/> 友だちとかかわれない子どもには、具体的なかかわり方を一緒に考えている <input type="checkbox"/> 友だちの発表に口をはさむ子どもへ、「話したいことは手を挙げて」と伝えている <input type="checkbox"/> いつもと違う様子の子どもの声に掛けている

# 「信州“Basic”」ご活用下さい！

## ～教材研究を考える～

「信州“Basic”」を当センターの講座で紹介したり，その内容を取り上げたり，そして講座参加の先生に配布したりして半年が過ぎました。「信州“Basic”」を様々な形で活用しているという声が，各校からも聞こえてきます。

〈授業編〉Ⅰ「教材研究」



「信州“Basic”」の6ページには、『「教材研究」って何をすればいいの?』というページがあります。校種，教科・科目によって教材研究の方法は様々ですが，よい授業をつくるという目標は変わりません。

今回は，教材研究を取り上げた理科・化学の講座を紹介します。

## 講座名

### 「基礎から学ぶ楽しい化学実験」

#### 〈講座の概要〉

#### I 講義

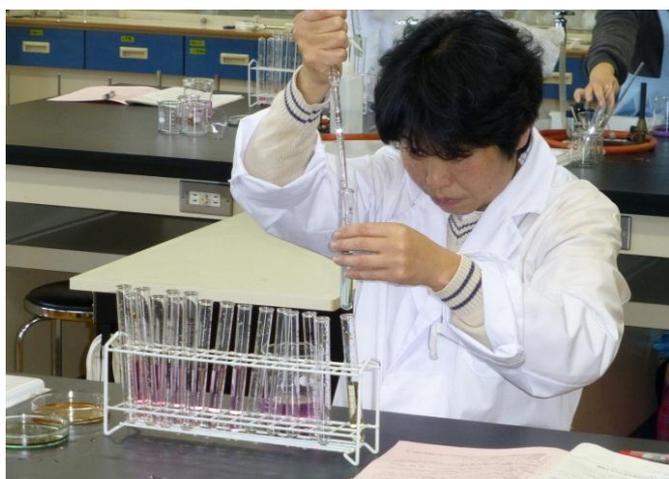
「実験・実験操作の基本」

#### II 実習

「実験器具の基本操作を学ぶ実験の工夫」

#### III 実習

「身近な素材を利用した実験」



理科，特に化学の講座では、『予備実験』の大切さを講座の中でお伝えしてきました。

予備実験とは，生徒実験や演示実験の前段階に授業者が行う実験であり，化学の教材研究の中でも最も大切なものです。

今回の講座では，「実験・実験操作の基本」ということで，予備実験のお話もさせていただきました。

予備実験を行うことで，たくさんの大切なことが見えてきます。

「この素材で興味関心をもってくれるかな。」  
「こんな変化が起きればみんな驚くだろうな。」  
「ここでこんなことに気づいてほしいな。」  
「きっとあの子はこんな発言をするだろうな。」  
「ここは慎重に観察させたいな。」  
「ここは気を付けないとケガをしそうだな。」  
「この結果を大事にしてまとめさせたいな。」

「信州 “Basic” 」が示す「子どもの実態」“目標や指導内容” “素材の研究” をもとに指導方法を構想する」教材研究が，化学では予備実験に当たります。少しの時間をかけることで，より多くの効果を生み出す『予備実験』を大切にしてください。

また，器具の基本操作を楽しく学ぶことができる硫酸銅を使った実験を紹介し，実習していただきました。授業者にとっては，正確な器具の操作を身につけることも，教材研究のひとつです。操作それぞれに理由があることを知っていただけたと思います。

身近な素材を使った実験も紹介しました。化学は教科書や実験室の中だけにあるものでなく，本当は，生活の中にあるのだということ子どもにわかってもらいたいものです。

#### 受講者の感想より：

「これまでの予備実験の視点とは全く違った，より深い視点を与えていただきました。」

「身近なもので面白いと思える実験をすることで，生徒の理科・化学に対する興味はいくらでも変えられるということを，身を以て感じました。」